

# 道徳教育方法研究

第4号

1998

## I. 論文

1. 児童の愛他行動と被愛他行動経験の関連に関する研究  
—愛他行動動機を媒介として—

尾身 浩光

2. 「道徳の時間」の指導方法の改善に関する研究  
—道徳教育に関わる代表的な教授理論の相互補完の可能性の探究を通して—

谷川 茂広 / 徳永 悦郎

3. コールバーグ派授業とジレンマ学習の相違点を考える  
—目標・内容・方法からの検討—

徳永 悦郎

4. 思いやり意識の因子構造

田村 博久

5. 生徒指導との連携を重視した「道徳の時間」の開発  
—「いじめ」をテーマとして—

桂山 洋一 / 徳永 悦郎

6. 「実践と意思の往復的学び」を指導原理とする道徳教育  
—総合学習「人間の学習」の試みを中心に—

堺 正之 / 中原 浩 / 植松 伸之

7. 道徳授業における道徳的思考力  
—1時間の授業で変わるもの—

森岡 卓也

## II. 講演要旨

多文化教育と価値教育

クライブ・ベック

### Ⅲ. シンポジウム 道徳授業の独自性—総合的学習の論議が進む中で—

#### 1. 問題提起

#### 2. 発表者論文及び指定討論者発言要旨

##### (1) 同和教育をふまえた総合単元的な道徳学習の取り組みから

圓岡 ひふみ

##### (2) 「総合単元的な道徳学習」の実践事例

—4年「命いっぱいノート作りを通して、自分の命に対する考えを見直そう」より—

六車 信二

##### (3) 道徳授業の独自性

—総合的な学習の論議が進む中で—

村尾 行也

##### (4) 指定討論者発言要旨

藤永 芳純

### Ⅳ. 事業報告

### Ⅴ. 日本道徳教育方法学会会則

### Ⅵ. 『道徳教育方法研究』投稿規定

### Ⅶ. 欧文サマリー

### 編集後記